

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざしたグループホームを目指し、理念を意識してケアに取り組んでいる。職員間でも意見交換しながら日々の実践につなげている。	事業所独自の理念があり、利用者の尊厳とその人らしさを保つことを介護の主眼としている。来訪者にも周知できるよう玄関や居間に理念を掲げている。理念にそぐわないような言動が職員に見られる時は別室において管理者が話を聴いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	多くのボランティアさんに来て頂き交流している。地域行事(演芸大会、お祭り又、防災訓練)などにも参加させて頂き、交流している。	小学校の運動会や音楽会に招待され出かけている。中学生の職場体験の受け入れも行っている。地域の文化祭に出品しようとポタアート作品などを手作りしている。近所の方から野菜をいただいたり、果物を届けながらお茶を飲んで行かれる方もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会の会合の折に、施設の様子など話し、認知症の理解、支援を求めたことはあった。今後、努力していかなくてはと思った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町村担当者の方、民生委員さんが地域のパイプ役になって下さり、頂いた意見は今後の検討課題としている。	本年度は11月に開催した。民生委員、包括支援センター保健師、家族の方数名の参加があった。年間計画実施状況と利用者の現状について報告を行なった。保健師から現状に沿った防災訓練が必要との意見もいただいている。	理念にある「地域社会とのつながり・住み慣れた地域で暮らし続けるための架け橋」を具現化するためにも開催回数増と委員に地域の方の増員を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から、現状報告、困っている事など相談し、理解、協力して頂けるようしている。	町主催の介護保険事業者会議に参加し情報を得ている。地域包括支援センターからの要請で緊急入居の受け入れをしたり、地域の要請で認知症サポーター養成講座の講師を務める等、連携を心がけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠についての弊害は理解している。見守り方法を徹底し、一人ひとりの状況把握を行っている。	玄関は開錠してあり、鈴をつけて出入りが確認できるようにしている。車椅子から転落した方がおり、家族と相談の上、車椅子ベルトを使用している方がおられた。外出傾向の強い方には一緒に散歩をし気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止、研修会へ参加し、職場会議において報告され、皆で学んでいる。		

グループホームコスモス松川2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用されている方もいる。後見人の方と連携し、日々支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際は十分な話し合いを持ち、理解、納得していただいた上で行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時職員から声掛けし、そのつど意見要望の把握につとめている。又、契約の際、町や国保連の相談窓口についても説明している。	意志表示できる利用者は約半数ほどである。伝えることが難しい方の場合には表情・動作・性格を考慮し推測している。家族面会時には職員から積極的に声をかけ要望等を聴き介護に反映させている。生活の様子を写真にしたホーム便りを毎月発行し、家族とのコミュニケーションをとっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場会議や申し送りの際、意見や提案などあれば参考にして日々の業務を行なうようにしている。	毎月職員全体会と各職場会議を開催している。意見交換は活発に行われている。欠席の場合は会議記録を見て情報を得ている。管理者の業務が多忙なので職員自ら係を決めて、役割分担をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの希望を考慮しながら、それぞれがやりがいをもって働き続けることができるように、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多くの職員が希望の研修に行かれる様、配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飯伊の連絡会において交流していたが、3年ほど行っていない。コスモスの3施設においては合同で、毎月1回研修を行ない、質の向上に励んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	頂いた情報に基づき、その方をよく見、知ろうとの思いを職員一人ひとりが持ち、コミュニケーションをとり、状況把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方の思いをしっかりと聞きし、何を求めているかの把握をし、受け止めながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当のケアマネジャーとよく相談しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活のなかで、それぞれの役割分担があり、職員と共に行っている。人生の先輩として		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	理解あるご家族が多く、密に連絡を取りながら、共に本人を支えられている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しかった友人や親戚の方が気軽に来られる様、来られた時には、気軽に過ごして頂ける様、努めている。	年に数回知人・友人の来訪のある利用者がいる。行きつけだった床屋に行く方もおり、職員が付き添っている。町内からの利用者も多く、買い物中に知人に会い話をする事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲良く支えあって生活出来るよう職員が調整役となって支援している。1人1人の個性や心身の状態や気分、感情の変化など配慮し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院によるサービスの終了、他施設に移られた方もいる。その後も家族と連絡をとり合ったり、入院している方については時々面会に行かせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉、言葉に出来ない思いを日々の行動や表情から汲み取る努力をしている。何気ない会話から職員が気づき、感じ取った情報を共有している。	思いや意向を表出できる方は半数ほどで、他の方は表情・動作・性格から推測している。毎日の献立にも利用者の希望を取り入れている。集団の中ではなかなか表現できない方には居室に行き、1対1になり、聴くように努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、今までのサービス提供事業所からも情報を頂き、生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを理解し、行動、表情からの心身状態の把握、生活面では出来る力に注目して現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意向を踏まえて作成し、作成後、家族に説明し、了解を頂くようにしている。職員の意見、アイデアも取り入れている。	利用者の毎日の身体状況や思いを申し送りノートに書いて、職員は必ずみるようにしている。計画作成担当者が現在1人なので、職員の意見や申し送りノートに書かれた状況や家族の意見を取り入れて計画を立てている。モニタリングは変化のあった時に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア、気づきは個別記録、連絡帳へ記入、職場会議・引き継ぎの折情報を共有して実践、計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通所利用、ショートステイなどと組み合わせながら支援に取り組んでいる。		

グループホームコスモス松川2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区サロンやお祭りへの参加、ボランティアさんに来て頂いての交流など、充実している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等の希望に添い、当法人の医師や協力病院の医師による適切な医療の提供が来ている。	かかりつけ医への受診は原則家族が付き添うことになっているが、遠方だったり家族が高齢の方も多く職員が付き添うことが多い。協力病院の医師が往診してくれることもある。同じ医療法人の医師の回診が月2回定期的にあり、健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、利用者さんの状況把握をし、問題があれば看護師に伝え、相談の上、受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にも、見舞い、病状の把握、治療の見直しなど主治医・看護師から話を聞いている。又、入退院時には互いに情報提供し、連携して対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に重度化対応同意書を交わしている。又、状態の変化に合わせて家族と密に連絡をとり合って支援している。	法人としての「重度化した場合における対応に関する指針」があり契約時に説明されている。おおかたの方は入院を希望されており、施設内での看取りは2～3年前、1件のみ経験した。終末期に近いと思われる方がおられる時は家族と相談を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習、初期対応の訓練、定期的ではないが実施している。より実践力を身に付ける必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職場内において、周知、徹底していく。地区の皆さんにも働きかけ、理解して頂き、協力体制を築きつつある。	消防署職員から通報・連絡訓練の指導を受け再確認をしている。避難訓練は机上でシミュレーションをしている。2階からどのようにして避難させるか検討中である。防災係を決めて年間計画を立案しようとの動きが職員内に出てきている。	様々な災害を想定して、利用者の状況に応じた避難や誘導ができるよう、年間計画を立て訓練を実施されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄の介助時にプライバシーを傷つけないよう配慮している。職員一人一人が、言葉かけにも十分注意して対応するよう、心掛けている。	呼びかけは「～さん」とお呼びしている。理念に掲げているように尊厳や願いを尊重し、その人らしさを保つことができるように寄り添っている。声かけも穏やかである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時々利用者の方の思いを大切にしている。言動、表情から思いを汲み取り把握に努めている。ゆっくりと分かりやすい声かけするよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れはあるが、体調や気持ちを考慮し、それぞれのペースで生活して頂いている。もっと希望に添えられる様努力したい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各々の好みの衣類を着て頂いている。身だしなみやおしゃれに興味をもっている方には、買い物に行き購入の機会を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、味見、お茶入れ、箸配りなど、出来る範囲で仕事を分担している。誕生日には好物を献立に取り入れている。	ほとんどの方は自力摂取されている。全介助の方は1人である。トロミ食の方も1人、きざみ食の方が3人、他の方は軟らかめの普通食を召し上がっている。調理や片づけを手伝ってくださる方もいる。職員も一緒のテーブルで食べ、味付けや好みの食材について意見を聞いていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取状態や訴えを考慮し食事量、形態等の工夫をしている。水分量にも気をつけ、ムセのある方にはとろみをつけて摂取量の確保をするようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、義歯の洗浄、除菌を行ない、口腔内の清潔保持に努めている。		

グループホームコスモス松川2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	特に支援の必要な方に対しては、1日の排泄パターン、排泄介助や誘導のタイミング、適切な介護用品の選択などの内容を職員間で共有し支援している。	自立の方が数名おられるが、ほとんどの方は何らかの介助をうけている。排尿は1時間ごとに声をかけ誘導している。排泄記録により傾向を把握し、便秘の様子が見られる時は薬で調整することもある。失敗した場合はさりげなく自室やトイレで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方に対しては、排泄表によって日々の傾向を確認し、指示に添って便秘薬内服を介助すること、又、バランスの良い食事内容に配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状では皆さんに入浴日を確保するために、一定の間隔で実施している。順番に希望のある方については優先してお湯の温度、介助の仕方など好みに合うよう工夫している。	週2~3回本人の体調や希望に合わせて声かけをしている。気分の乗らない方場合は時間や日を変えて勤め、タイミングを見計らって入浴していただいている。全介助の方が4人おられ、リフトの設置を考慮中である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムはあるが、体調や状況に応じてゆっくり休息をとって頂いている。希望される方には湯たんぽを使用していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更や、新たに処方された時にはその薬の必要性や用法・用量について徹底をはかり、症状の変化について医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	働くことを生きがいとしてきた方が多いなかで、役割をもって生活することの大切さを感じている。各々ができる仕事をお願いし、張り合いを感じていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や行事等の外出には希望に添った外出ができています。願望内容により支援が難しいこともあるが、出来るだけ意に沿った外出ができるよう支援している。	買い物等外出支援を心掛けていますが、年々高齢になり歩行困難者が増え、ままならない状況にある。玄関前の陽だまりで外気や日差しを感じてもらおう工夫をしている。年間計画として四季の行事、桜・藤の花見、リンゴ畑、紅葉を見に行く等のドライブを立案している。	

グループホームコスモス松川2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望をご家族に連絡し了解を得た上で、職員と一緒に買い物に出掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要性を感じ希望している方に対しては、時間帯など配慮しながら対処している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心がけている。季節の草花を生けたり、植えたりして楽しんでいる。利用者さんが制作した作品もホール内に展示している。	居間は広く開放的で明るい。利用者手作りの人形や和紙細工の花・ブドウを貼り付けた壁掛けが飾られている。廊下には中学生が実習に来た時一緒に作った絵が貼られていた。清潔が保たれ、気になる臭気も感じられなかった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机、椅子の位置は利用者さんの状態に応じてかえ、居心地良く過ごして頂ける様、工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大切にしてきたタンス、人形、写真など部屋に飾り、居心地良く過ごせるようにしている。	読書が趣味という方の居室には読書用の机と本棚があり、文学書が数冊おかれていた。生き甲斐を支えている様子がうかがえた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の状態や安全に配慮し、居室内の配置をきめ、日々職員間で話し合いながら工夫している。		